

令和元年度第61回全国公立学校教頭会研究大会滋賀大会特別分科会Ⅱ 報告書

大分県公立学校教頭会 会長 後藤 啓二

- 1 日時 令和元年8月1日(木) 9時30分～16時30分
- 2 場所 滋賀県大津市「琵琶湖ホテル」瑠璃
- 3 課題 開催市の創意を生かした課題 「環境教育・環境問題への取組」
- 4 講演

(1) 「環境に主体的に関わる力を育むフローティングスクール学習」

～びわ湖や郷土について学び、考え、伝え合い、

びわ湖と自分のつながりを見つめる子の育成を目指して～

- ① 講師 滋賀県立びわ湖フローティングスクール所長 小野澤 稔香 氏

② 内容

滋賀県では、琵琶湖の水質保全のために様々な取組を行ってきた。その中で「フローティングスクール学習」については、県内の全ての5年生を対象に20年以上続けている。基本的に二校以上の5年生が、学習船「うみのこ」に乗船し、琵琶湖内で一泊二日の宿泊体験学習を行う。日中は、水質検査・水中生物の観察・寄港地の歴史散策の活動、夜は船内で集会活動などを行って交流を深めている。

③ 協議の柱

環境教育の展開・推進を目指し、身近な環境に主体的に関わろうとする子どもを育てるために、教頭としてどのように関わるか。

(2) 「ヨシいけドンドン作戦による琵琶湖の環境保全活動と環境教育」

- ① 講師 公益財団法人淡海環境保全財団 専門員 田井中 文彦 氏

② 内容

かつて日本各地に存在したヨシ原は、環境の変化に伴い減少している。そのような中、同財団は、琵琶湖周辺のヨシ原の保全や琵琶湖の水草の保全も目的とし、現在小学生向けに環境教育も行っている。

田井中氏は、ヨシ保全のボランティア活動の立ち上げに多く携わってきた。中でも琵琶湖周辺にヨシの苗を植える活動では、地域の中学生・保護者と協力しながら活動を続けている。その呼びかけ方や活動の継続について大切なことは、環境問題に対する意識の共有である。

④ 協議の柱

環境教育・環境保全活動の展開・推進を目指し、保護者や地域の方と連携していくために、教頭としてどう関わるか。

5 考察

グループ討議では、まず環境問題を含め地域との連携をいかに深めるかが話題になった。大切なことは、学校の中で各活動の目的や運営の仕方について職員全員が意識の共有をすることであり、地域とも共有することである。また、教頭としてはその窓口になる場面が多くあるので地域の方とのつながりでは保護者を含めた選択肢を持っていたい。

環境問題に関しては、参加者各地の地域性があるので交流を行った。琵琶湖ほど大きくて県内の誰もが取り組めるような題材がなくても、身近なことそして自分の住んでいる地域のことで環境問題は取り組めるという結論になった。

講演の中で、環境問題に取り組むことが豊かな心情を育てることにつながるとあったが、子どもたちの健やかな成長を考えたときに、とても必要な内容だと感じた。